

## 第5回 まちづくり市民ワークショップ《いばらきMIRAIカフェ》ニュース

### ◆ 次 第 ◆

(開会)

1. はじめに
  - ・ 前回家での振り返り、今回の取り組みについて
2. グループワーク①
  - ・ キャッチフレーズ披露の準備
  - ・ キャッチフレーズ披露と意見交換
  - ・ 近畿大学 久(ひさ)先生から講評
3. 市民によるまちづくりの紹介
  - ・ 西尾チエさん(株式会社 ギャラリーケイツー 代表取締役)
4. グループワーク②
  - ・ 久先生、西尾さんのお話からまちづくりについて質問を考える
  - ・ 久先生や西尾さんを困らせて、質疑応答します！
5. その他
  - ・ グループ分けのためのアンケート調査への回答

(閉会)

日時:平成 25 年 10 月 20 日(日)、9:30~12:10

場所:茨木市役所南館 10 階大会議室



当日の会場の様子

### ◆第 5 回ワークショップの概要

第5回ワークショップは 55 人の方に参加していただきました。

- まず、各班のキャッチフレーズを発表してもらい、それを受けて近畿大学久先生より講評とキャッチフレーズの考え方についてお話していただきました。
- 次に、春日商店街でさまざまな取り組みをしている西尾チエさん(株式会社 ギャラリーケイツー 代表取締役)から、市民によるまちづくりの紹介をしていただきました。
- これらを踏まえ、各班で久先生、ゲストの西尾さんのお話からまちづくりについての質問や自分たちで考えた取り組みへアドバイスしてほしいことなどを考え、班ごとに質問をし、西尾さんにはそれぞれの質問にまとめて答えていただきました。久先生には、時間の都合もあり次回以降に答えていただくことになりました。

### ◆第 5 回ワークショップの内容

#### 茨木市の将来像を表す キャッチフレーズの披露！



#### 披露の準備をしました

- 前回(第4回)考えたキャッチフレーズのもとでの「まちづくりの活動」「自分ができる取り組み」について補足することがないかを検討し、キャッチフレーズをみんなに披露するポイントの整理やアピールの工夫を考えました。

[1]



## 検討の成果を披露しました

- 各グループでつくったキャッチフレーズについて、フロア全体に紹介していただきました(13チーム×2分)。

## 参加者の茨木市に対する思いがあふれたキャッチフレーズが目白押し！

- つながるまち茨木 人と人 人と自然
- 学生の力を活用し子供からお年寄りまでつながりのある町
- 四季が巡る新しい都市
- 共生・共育・共働～共にくらすまち いはらき～
- ガッツ！！茨木
- 活気あふれる優しい町にちょっと出かけませんか
- 茨木愛に満ちあふれ イキイキ時を感じられるまち
- バラ色の笑顔育むやすらぎのまち
- 歩く集う笑う町茨木
- 街と山・人と人がつながるまち
- “生涯自立”にチャレンジ！！
- 楽しく住んで、地元を愛して、長生きできる街いはらき
- ゆる(い)まち おり(たい)まち チョードいいまち

## 講評の概要:久(ひさ)先生

- まちづくりにキャッチフレーズはなぜ必要か。全市民が盛り上がるには共通の方向性を持つことが大切であり、そうすることで具体的なまちづくりの方向性が見えてくる。
- 発表内容については、例えば「いきいき」や「活性化」は元気をさすが、何を持って元気とするのか、イメージは統一したい。また、「いきいき」と「やすらぎ」は方向性が違い、一つのキャッチフレーズに統合する場合は議論が必要である。そういった点でキャッチフレーズづくりはなかなか難しい。
- キャッチフレーズは、自分たちの行動につながるべきで、色々な考えを一つにまとめてしまうとつまらなくなる。逆にとびぬけた方向性は誰かが我慢しなければならないこともある。
- 田原総一郎(著)の「40歳以上はもういない」(PHP新書)という本にもあるが、20、30歳代と40歳代では考え方や動き方が違う。世代をつなぐというのは、価値観、人生観が多様化している中で、時にはぶつかりあうこともある。
- 3人が核になり、7人が支援すれば何でもできる。小さなことの積み重ねが大きなものになる。その方向性がキャッチフレーズである。



## 西尾チエさんから「春日商店街の取組み」の実践報告！

- 「春日商店街」は春日神社への参道にあたり、かつて「松下通り」とよばれ、松下への通勤の道として栄えたが、バス通勤に変わり、バブル崩壊以降シャッター通り(66 店舗中 15 店舗)と化した。店舗を誘致したりもしたが結果的にはうまくいかなかった。
- 商店街として元気のない理由は、お店は職と住が一緒になっており、30~40 年たつとローンが終わり、商売をやめる人も出てくる。その結果、まちに魅力がなくなった。商店街には、人、活気、匂いが必要である。また、車が通行するのも障害であり、警察とも協議したが通行止めは許可してもらえなかった。商店街は、人が歩き、物品販売がないと栄えない。
- 物品販売を誘致しようとしたが誰も来なかった。整形外科が商店街に1店舗あるが、今もずっとはやっている。高齢化社会に合っているからである。
- そこで、新たな取り組みを始めた。まずコンセプトを①エコ、②地域とした計画づくりを始め、役員、有志で話し合い、手探りで進めた。商工会議所や市のバックアップで計画をまとめ、ハード事業として、防犯灯の改修事業に着手した。地元建築家にデザインを依頼し、LEDを活用しエコに配慮した。
- また、商店街の空き店舗で実験的に実施された追手門学院大学のチャレンジショップ「追風」では、物販やイベントなどを実施し、若い人達が活気をもたらした。
- 「打ち水大作戦」と名付けたエコなソフト事業は、府・市と連携して取り組み、大阪府茨木土木事務所に打ち水用の雨水タンクを設置してもらった。祭りの時には、地域の子もたちが絵を描いた灯籠を作成して並べ、幻想的な街並みづくりとなった。企画の段階から大学生にも入ってもらい、カフェや子ども向けのイベント(プリン容器を使った風鈴づくり)を行った。松下通り以上の大繁盛となり、NHK、関西ウォーカーでも紹介された。
- ハロウィンでは、見山の郷のかぼちゃコンテストに協力してもらい、かぼちゃのランタンづくり、お菓子をもらいイベント、各店舗のチケット配り等を行った。大きなかぼちゃづくりは大変で、次の年にかぼちゃを他から仕入れようとしたが運送費が本体よりも高く付いたためあきらめた。イベントを続けるのには大変な努力が必要と感じた。また、クリスマスにはポインセチアで赤い通りづくりもした。
- 現在、佐保の農家の方と連携し直売所を設置している。朝採れ野菜を販売しており、3分の1は事前予約で売ってしまう状況である。生産者との交流、餅つき、猪鍋も行っている。今後、道の駅的なものがないかと考えており、生産者とのコラボの舞台になれば良いと考えている。
- メディアに顔出しするなどががんばったが、市や商工会議所等の動きと連携することが大事で、次の人へのバトンタッチ等により、継続することが大切と考えている。



## 久先生やゲストを囲んで、まちづくりのあれこれを問答！

### まずは、各班で久先生、西尾さんへの質問を準備

- 久先生や西尾さんのお話を聞いて、疑問に思ったこと、今後の自分たちの活動を考えたときに、是非アドバイスしてほしいことなどをグループでまとめました。



### 久先生へ質問

- 総論風キャッチフレーズはぼやける。とびぬけると合意しにくい、しぼり方をどうしたらよいのか。
- 市街地と山間部のつながりをどうするか。
- キーワードの作成について多世代の価値観をどうまとめていけばよいか。
- 小さな活動と大きな方向性をどう結びつけるのか。また、核となる人をどうつくるのか。続ける意識付けの工夫は。
- 今、班としては抽象的なものになっているが、一方を追求すれば、他方を犠牲にするというトレードオフの関係についてどこまで考えるか。
- とがったものにするためうまく話し合う方法は。単発をつなげて続けていく方法は
- やる気のある人をつなぐ方法は。次にどうつなげるか。自分たちでできることは何か。
- 価値観、人生観の違いのすり合わせの方法は。その具体例は。3人の核と7人の支援について MIRAI カフェでできることは。
- キャッチフレーズや方向性の言葉の選択の仕方は。



### 久先生からコメント

- 今日は時間がないので、次回以降に詳しく説明したい。
- 長続きの秘訣は、①人をあてにしない、②形にしないで大きな方向性でとめておく、の2点である。

## 西尾さんへ質問

- 「追風」が続かなかった理由は。商店街の取り組みの効果や補助金が切れた後の取り組みの希望は。
- 商店街の今後のイベント予定とその情報発信は。今後、学生のつながりによってできた「追風」のような機会があるのか。
- 補助金なしでも続けられるコツは。
- 商店街の活性化として道の駅を今後どう使うのか。
- 人、もの、金の中で、人へのバトンタッチの続きは。



## 西尾さんからコメント

- 「追風」の件は、期間限定の国の補助金を活用したため、今はない。
- 70～80歳の人が多く、新しく入ってきた若い人をどう取り込んでいくか。
- 自分の店の長所・短所はわからないので、自分の店の売りは何かの勉強会を開催していく。
- イベントを次々にしかける。役員任せではなく、有志を集める。
- ボランティアが増え、毎日やることが継続できるようになった。続けるためには、横のつながりを常に考え、新しい人を引っ張り込むと、人が集まってくる。
- 役員には任期が14～15、20年の人もあるが、常に考える人が今後は中心となるべきである。
- 茨木では農産物を売るところがない。道の駅の事業主体は、民間が良いが制度的には自治体であり、市も頑張りたい。
- いろいろな主体が行っていることには、相乗りする必要がある。
- 商店が住宅化する傾向があり、店主がこのワークショップに参加したらよいと思う。



## ◆次回(第6回)の予定

日時:11月2日(土)9:30～12:00 場所:茨木市役所南館10階大会議室  
内容:「テーマごとに具体的なまちづくりを考えよう!」(予定)



発行:いばらきMIRAIカフェ事務局(茨木市企画財政部政策企画課 Tel072-620-1605)

ホームページ <http://www.city.ibaraki.osaka.jp/mirai>

Facebook ページ <https://www.facebook.com/ibaraki.mirai.project>